

PFOS、PFOA の発がん性分類について

国際がん研究機関（IARC）により、PFOS 及び PFOA について発がん性の分類が行われた結果が、2023 年 12 月 1 日に公表された。

<分類の結果>

- PFOA：グループ 1（2014 年時の評価ではグループ 2B）
 - ・ 動物試験の知見：ラットにおいて肝細胞癌、膵腺房細胞腺癌、子宮腺癌が引き起こされることについて、十分（sufficient）な知見が得られている。
 - ・ 発がんメカニズムの知見：母親の血清 PFOA 濃度とその子どもでの DNA メチル化との関連がみられること、PFOA ばく露とがん関連 miRNA 発現との関連がみられること等について、強い（strong）知見が得られている。
 - ・ ヒトの知見：腎細胞がん、精巣がんに関する知見が報告されているが、限られている（limited）。その他のがん種については、知見は不十分である（inadequate）。

- PFOS：グループ 2B（今回初の評価）
 - ・ 動物試験の知見：肝細胞癌を報告する知見もあるが、知見は限られている（limited）。
 - ・ 発がんメカニズムの知見：ヒト初代培養細胞及び実験系の両者において酸化ストレスを有し、甲状腺及びアンドロゲン様作用を有することについて、強い（strong）知見が得られている。
 - ・ ヒトの知見：知見は不十分である（inadequate）。

<評価の詳細>

数か月後に公開される予定。

<参考>

➤ IARC の会合の日時と参加者：

日 時：2023 年 11 月 7～14 日

参加者：11 か国からなる 30 名の科学者（米国 15 名、日本、中国、フランス、デンマーク、ノルウェー各 2 名、英国、ブラジル、オーストラリア、スウェーデン、チェコ各 1 名）

➤ 発がん性リスクの4段階分類>

グループ1： ヒトに対して発がん性がある

グループ2A： ヒトに対しておそらく発がん性がある

グループ2B： ヒトに対して発がん性がある可能性がある

グループ3： ヒトに対する発がん性について分類できない



